令和3年度「まちかどコメンテーター」 アンケート調査結果 <抜粋版>

鹿児島市

- ・第4回
 - 1 性の多様性について(人権推進課)
 - 2 郷土芸能の保護について(文化財課)
 - 3 子どもの未来応援条例(仮称)の制定について(こども福祉課)

目 次

I	調査の概要	. 1
I	性の多様性について	. 4
Ш	郷土芸能の保護について	12
IV	子どもの未来応援条例(仮称)の制定について	24

I 調査の概要

1. まちかどコメンテーターの概要

(1) まちかどコメンテーターとは

市民の皆様に「まちかどコメンテーター」になってもらい、市民目線の意見・提言を聴取するとともに、市民のニーズを把握し、市政運営の参考とさせていただくものです。

また、アンケートを通じて、市民の皆様の市政への関心・興味を深めていただくことも目的と しています。

(2) まちかどコメンテーターの選定方法

市内に住むか通勤・通学する 18 歳以上の方を対象とし、一般公募及び住民基本台帳から無作為 抽出した市民 2,500 人への就任依頼において、応募・承諾いただいた方により構成しています。

(3)任期

令和3年7月1日~令和4年6月30日

(4) 人数

328人(第4回調査実施時点)

(5) 所管課

市民局 市民文化部 市民協働課

2. 第4回調査の概要

(1)調査概要

	性の多様性について	人権推進課	
テーマ/担当課	郷土芸能の保護について	文化財課	
	子どもの未来応援条例(仮称)の制定について	こども福祉課	
調査期間	令和3年11月5日~11月26日		
回答率	72.0%(236人)		

(2)回答者属性

① 性別

選択肢	回答数	割合	その他・ 答えたく	無回答 1.3%
男	103	43.6%	ない 0.4%	
女	129	54.7%		男 43.6%
その他・答えたくない	1	0.4%	女 54.7%	
無回答	3	1.3%		
サンプル数	236	100.0%		

② 年代

選択肢	回答数	割合	
18歳~29歳	32	13.6%	70歳以上 無凹台 20歳
30歳代	55	23.3%	60歳代
40歳代	53	22.5%	
50歳代	48	20.3%	30版((
60歳代	29	12.3%	20.3% 40歳代
70歳以上	15	6.4%	00.50/
無回答	4	1.7%	
サンプル数	236	100.0%	

③ 居住地域

選択肢	回答数	割合	0% 20% 40% 60% 80% 100%
中央地域	86	36.4%	36.4%
谷山地域	41	17.4%	17.4%
伊敷地域	39	16.5%	16.5%
吉野地域	25	10.6%	10.6%
桜島地域	3	1.3%	1.3%
吉田地域	8	3.4%	3.4%
喜入地域	15	6.4%	6.4%
松元地域	10	4.2%	4.2%
郡山地域	6	2.5%	2.5%
無回答	3	1.3%	1.3%
サンプル数	236	100.0%	

3. 報告書上の留意点

- ・構成比は小数点第2位以下を四捨五入して表示しているため、合計が合わない場合があります。
- ・複数回答可の質問の構成比の合計は100%を超えることがあります。
- ・設問文や選択肢等の表記において、原文より変更している場合があります。
- ・本報告書<抜粋版>においては、その他への具体的回答内容及び自由回答設問の回答内容部分 を割愛しています。

Ⅱ 性の多様性について

1. 調査の目的

本市では、市民一人ひとりの人権や多様性が尊重され、誰もが安心して暮らしていける社会の実現にむけて人権教育・啓発基本計画を策定し、啓発活動に取り組んでおります。その取り組みの一環として令和4年1月からは「鹿児島市パートナーシップ宣誓制度」を導入いたします。今回は、市民の皆さんに性の多様性(性的少数者(LGBTなど)やパートナーシップ宣誓制度など)についての考えをお聞かせいただき、今後の施策の参考とするために、アンケートを実施しますので、ご協力をお願いいたします。

2. 調査結果を受けて担当課(人権推進課)からのコメント

「LGBT」という言葉については、83.5%の方が「知っていた」と回答されており、浸透してきていることが分かりますが、「SOGI」については 79.7%が「知らなかった」と回答していることから、市民の方々の性の多様性に関する基礎知識の向上を図る必要があると考えます。

また、72.9%の方が現在の社会は性的少数者の方々にとって生きやすい社会だと「思わない・どちらか言えば思わない」と回答され、その理由として、70.3%の方が「周囲の人の理解が得られないから」と回答していることから、性的少数者の生きづらさを解消するためには、当事者への社会的理解を広げていくことが課題であると考えます。

性的少数者の方々が生活しやすい社会になるため必要な取り組みとしては、「教育現場での啓発活動」(68.6%)や「行政による制度や環境の整備」(63.6%)を多くの方が選択していることから、子どものころからの教育・啓発や性的少数者の支援制度の創設などが重要視されていることが分かりました。

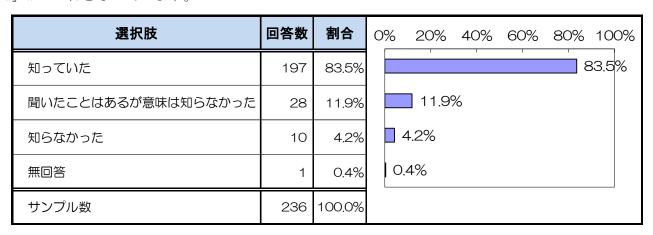
なお、「鹿児島市パートナーシップ宣誓制度」については、「知らなかった」と回答された方が52.5%であったことから、制度のさらなる周知啓発が必要であると考えおります。

今回の調査結果を踏まえ、性の多様性について社会的理解を広げるための取り組みを進めてまいります。

3. 調査結果

問1 性的少数者の総称の一つである「LGBT」という言葉を知っていましたか。(単一回答)

「知っていた」が 83.5%、「聞いたことはあるが意味は知らなかった」が 11.9%、「知らなかった」が 4.2%となっています。



問2 「SOGI (ソジ・ソギ)」という言葉を知っていましたか。 (単一回答)

「知っていた」が 8.5%、「聞いたことはあるが意味は知らなかった」が 11.4%、「知らなかった」が 79.7%となっています。

選択肢	回答数	割合	0% 20% 40% 60% 80% 100%
知っていた	20	8.5%	8.5%
聞いたことはあるが意味は知らなかった	27	11.4%	11.4%
知らなかった	188	79.7%	79.7%
無回答	1	0.4%	0.4%
サンプル数	236	100.0%	

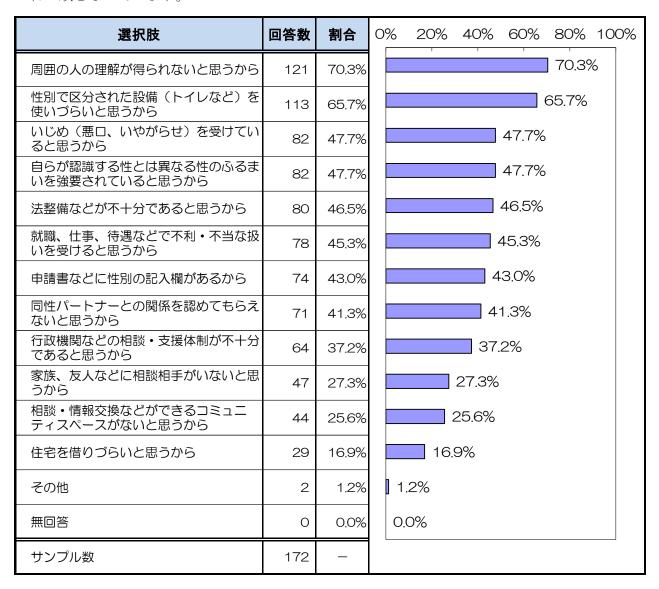
問3 現在の社会は、性的少数者の方々にとって、偏見や差別などの人権侵害のない生きやすい社会だと思いますか。(単一回答)

「どちらかと言えば思わない」が 54.7%と最も高く、次いで、「どちらかと言えば思う」の 20.8%、「思わない」の 18.2%の順となっています。

選択肢	回答数	割合	0% 20% 40% 60% 80% 100%
思う	14	5.9%	5.9%
どちらかと言えば思う	49	20.8%	20.8%
どちらかと言えば思わない	129	54.7%	54.7%
思わない	43	18.2%	18.2%
無回答	1	0.4%	O.4%
サンプル数	236	100.0%	

問4 問3で「3. どちらかと言えば思わない」「4. 思わない」と回答され た方にお伺いします。そう思う理由は何ですか。(複数回答)

「周囲の人の理解が得られないと思うから」が 70.3%と最も高く、次いで、「性別で区分された設備 (トイレなど) を使いづらいと思うから」の 65.7%、「いじめ (悪口、いやがらせ) を受けていると思うから」「自らが認識する性とは異なる性のふるまいを強要されていると思うから」の 47.7%の順となっています。

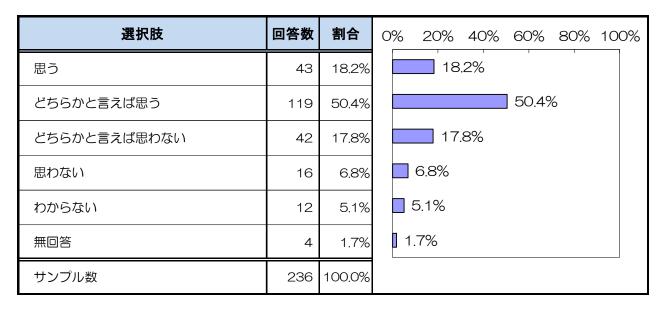


◆その他の回答(一部抜粋・原文まま)

・自分の性に関する気持ちを素直に表現することが憚れると感じているのではないかと思うか ら。

問5 LGBTに関する社会的な意識が高まっていると思いますか。 (単一回答)

「どちらかと言えば思う」が 50.4%と最も高く、次いで、「思う」の 18.2%、「どちらかと言えば思わない」の 17.8%の順となっています。



問6 家族や友人など身近な方がLGBTなどであった場合、あなたはこれまでと変わりなく接することができますか。(単一回答)

「できると思う」が 61.4%、「できないと思う」が 9.7%、「わからない」が 28.8%となっています。

選択肢	回答数	割合	0% 20% 40% 60% 80% 100%
できると思う	145	61.4%	61.4%
できないと思う	23	9.7%	9.7%
わからない	68	28.8%	28.8%
無回答	0	0.0%	0.0%
サンプル数	236	100.0%	

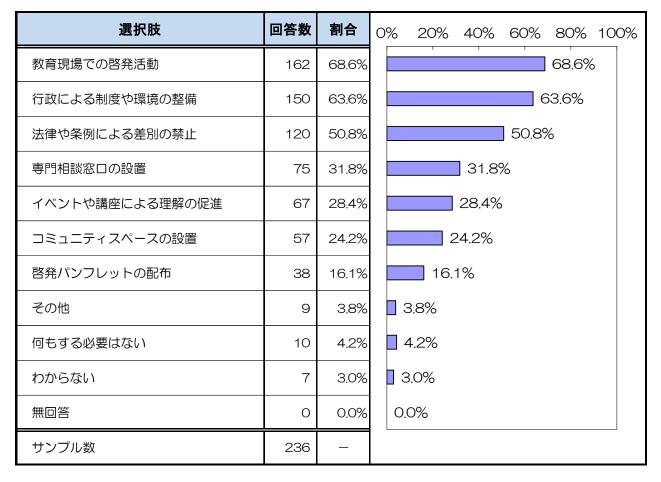
問7 学校や職場の人がLGBTなどであった場合、あなたはこれまでと変わりなく接することができますか。(単一回答)

「できると思う」が 67.8%、「できないと思う」が 7.2%、「わからない」が 25.0%となっています。

選択肢	回答数	割合	0% 20% 40% 60% 80% 100%
できると思う	160	67.8%	67.8%
できないと思う	17	7.2%	7.2%
わからない	59	25.0%	25.0%
無回答	0	0.0%	0.0%
サンプル数	236	100.0%	

問8 LGBTなどの性的少数者の方々が生活しやすい社会になるためには、 どのような取り組みが必要だと思いますか。(複数回答)

「教育現場での啓発活動」が 68.6%と最も高く、次いで、「行政による制度や環境の整備」の 63.6%、「法律や条例による差別の禁止」の 50.8%の順となっています。



◆その他の回答(一部抜粋・原文まま)

・ドラマとかSNSとか身近な媒体で描く事で、理解しやすくなりそうに思う。

問9 本市で性的少数者(LGBTなど)への支援策として実施予定の「鹿児島市パートナーシップ宣誓制度」について知っていましたか。 (単一回答)

「知っていた」が 24.6%、「聞いたことはあるが制度内容は知らなかった」が 22.9%、「知らなかった」が 52.5%となっています。

選択肢	回答数	割合	0% 20% 40% 60% 80% 100%
知っていた	58	24.6%	24.6%
聞いたことはあるが制度内容は知らなかった	54	22.9%	22.9%
知らなかった	124	52.5%	52.5%
無回答	0	0.0%	0.0%
サンプル数	236	100.0%	

問 10 性的少数者(LGBTなど)やパートナーシップ宣誓制度について、 ご意見があればお聞かせください。

◆回答一覧(一部抜粋・原文まま)

回答内容	性別	年代	地域
多様性の世の中にLGBTの人もそうでない人も生きやすく、受け入れ 易い環境が整っていくと良いと思います。対応が違うということと差別 は同じではないと思うので、難しいところではあるが、多くの人が笑顔 で過ごせる世の中になってほしいです。LGBTだけでなく人は違って 当たり前、同じでなくて良いという教育が必要だと思います。	女	40 歳代	伊敷
性的少数者の方たちへの理解が、なかなか得られていない今日ですが、 鹿児島市がパートナーシップ宣誓制度を取り入れることによって、たく さんの人たちの認知度と理解が得られたらいいなと思います。	女	40 歳代	中央
偏見を持っているものを今からなくすというのは、色々なことをしてもなかなか難しいと思う。これは、小さな頃からの教育で自然と当たり前のこととして受け入れられている状態にならないと、成人してから変わるというのは根本的には無理だと思う。生活様式や文化が少しずつ変わっていくのと同じように少しずつしか変わらない。この制度は、まずはやらないといけないことです。	男	40 歳代	伊敷
私が子供の頃には、ほとんど公の場で語られる事さえなかった事柄。最近はよく見聞きするし、子供たちとの間でも自然と話題になるほど身近には感じている。実際、性的少数者の立場ではまだまだ生きにくい社会だと思うし、もっと私たちの理解を深めないといけないし、偏見に晒されないような仕組み作りも必要だと思う。ただ現状、身近なところにいない(いるけど公にしていない)ので、実際のところどう対応すればいいのか、自然に振る舞えるかは、正直…よく分からないです。	女	40 歳代	中央

Ⅲ 郷土芸能の保護について

1. 調査の目的

郷土芸能とは、各地域社会の祭りなどで、地元の人により演じられながら伝承されてきた、唄や踊りのことを言います。また無形民俗文化財とは、生活・信仰・行事に関する風俗慣習や民俗芸能を含む、郷土芸能よりも広い枠組みを指します。

本市では、この郷土芸能や、指定を受けた無形民俗文化財の保存会に支援を行っていますが、少子高齢化や後継者不足により、存続が危ぶまれる団体もあります。

市民の皆さんの関心度・認知度などを把握し、今後の事業推進の参考とするために、アンケートを実施しますので、ご協力をお願いいたします。

2. 調査結果を受けて担当課(文化財課)からのコメント

郷土芸能の観覧について、79.6%の方が「興味がある」と回答され、郷土芸能を保護する必要があるかどうかという設問では81.3%の方が「強くそう思う」「そう思う」と回答されるなど、郷土芸能への関心の高さがうかがえました。

一方で郷土芸能への参加経験がある方は 20.9%に留まり、参加経験がない方のうち 72%の方が「観覧には興味があるが、活動には参加したくない」「観覧や活動には興味がない」と回答されました。郷土芸能の大切さは認識されつつも、活動への参加には時間的・金銭的・心理的なハードルがあり、これらのハードルを下げていく必要があることが分かりました。

本市としましては、郷土芸能団体への運営費・用具補修補助や、学校での継承活動に引き続き取り組んでまいります。今回いただいたご回答を踏まえ、周知・広報の強化についても検討してまいりたいと思います。

3. 調査結果

問 11 地域の歴史に関心がありますか。(単一回答)

「ある程度関心がある」が 51.7%と最も高く、次いで、「あまり関心がない」の 26.7%、「非常に関心がある」の 19.1%の順となっています。

選択肢	回答数	割合	0% 20% 40% 60% 80% 100%
非常に関心がある	45	19.1%	19.1%
ある程度関心がある	122	51.7%	51.7%
あまり関心がない	63	26.7%	26.7%
まったく関心がない	6	2.5%] 2.5%
無回答	0	0.0%	0.0%
サンプル数	236	100.0%	

問12 地域の文化財に関心がありますか。(単一回答)

「ある程度関心がある」が 58.5%と最も高く、次いで、「あまり関心がない」の 22.9%、「非常に関心がある」の 15.7%の順となっています。

選択肢	回答数	割合	0% 20% 40% 60% 80% 100%
非常に関心がある	37	15.7%	15.7%
ある程度関心がある	138	58.5%	58.5%
あまり関心がない	54	22.9%	22.9%
まったく関心がない	7	3.0%	3.0%
無回答	0	0.0%	0.0%
サンプル数	236	100.0%	

問 13 文化財のうち、無形民俗文化財には、地域の人々によって上演・伝承されてきた「郷土芸能」がありますがご存じですか。(単一回答)

「ある程度知っている」が 44.1%と最も高く、次いで、「内容は知らないが、言葉は聞いたことがある」の 37.7%、「知らない (このアンケート以前に聞いたことがない)」の 11.4%の順となっています。

選択肢	回答数	割合	0% 20% 40% 60% 80% 100%
よく知っている	16	6.8%	6.8%
ある程度知っている	104	44.1%	44.1%
内容は知らないが、言葉は聞いたことが ある	89	37.7%	37.7%
知らない (このアンケート以前に聞いた ことがない)	27	11.4%	11.4%
無回答	0	0.0%	0.0%
サンプル数	236	100.0%	

問 14 問 13で郷土芸能を「1.よく知っている」「2.ある程度知っている」 と回答された方にお伺いします。郷土芸能の情報をどのように知りま したか。(複数回答)

「地域のお祭りやイベントで知った」が 73.3%と最も高く、次いで、「テレビ・ラジオ・新聞・インターネット・SNSで知った」の 54.2%、「学校の授業や部活動で知った」の 29.2%の順となっています。

選択肢	回答数	割合	0% 20% 40% 60% 80% 100%
地域のお祭りやイベントで知った	88	73.3%	73.3%
テレビ・ラジオ・新聞・インターネッ ト・SNSで知った	65	54.2%	54.2%
学校の授業や部活動で知った	35	29.2%	29.2%
家族・友人・知人を通して知った	33	27.5%	27.5%
公民館に置いてある記録映像を見て知っ た	11	9.2%	9.2%
その他	5	4.2%	4.2%
無回答	0	0.0%	0.0%
サンプル数	120	_	

◆その他の回答(一部抜粋・原文まま)

・鹿児島市の黎明館のほか、日置市や出水市、薩摩川内市といった市の民俗資料館の中に、パネルで展示していました。

問 15 問 13 で郷土芸能を「1. よく知っている」「2. ある程度知っている」 と回答された方にお伺いします。郷土芸能に参加したり、実演を観た りしたことがありますか。(単一回答)

「活動に参加したことはないが、実演を観たことがある」が 58.3%と最も高く、次いで、「郷土芸能に参加したり、実演を観たりしたことがない」の 20.8%、「以前は参加していたが、直近3年間は参加していない」の 16.7%の順となっています。

選択肢	回答数	割合	0% 20% 40% 60% 80% 100%
直近3年の間に郷土芸能に参加した(用 具作りやお茶出しも含む)	5	4.2%	4.2%
以前は参加していたが、直近3年間は参加していない	20	16.7%	16.7%
活動に参加したことはないが、実演を観 たことがある	70	58.3%	58.3%
郷土芸能に参加したり、実演を観たりし たことがない	25	20.8%	20.8%
無回答	0	0.0%	0.0%
サンプル数	120	100.0%	

問 16 問 15 で「1. 直近 3 年の間に郷土芸能に参加した」と回答された方にお伺いします。活動に参加することで、どのようなメリットがありましたか。(複数回答)

「地域に愛着がわいたり、地域の歴史に興味がわいたりした」が 80.0%、「活動を通して友人や 知人が増えた」の 60.0%となっています。

選択肢	回答数	割合	0% 20% 40% 60% 80% 100%
地域に愛着がわいたり、地域の歴史に興 味がわいたりした	4	80.0%	80.0%
活動を通して友人や知人が増えた	3	60.0%	60.0%
踊りや演奏が、趣味や生きがいになった	0	0.0%	0.0%
お茶会や宴会の機会が増えた	О	0.0%	0.0%
その他	0	0.0%	0.0%
特にメリットは感じていない	0	0.0%	0.0%
無回答	0	0.0%	0.0%
サンプル数	5		

問 17 問 15 で 「1. 直近 3 年の間に郷土芸能に参加した」と回答された方にお伺いします。活動に参加することで、どのようなデメリットがありましたか。(複数回答)

「仕事や家事に時間がとれなくなった」「会費や宴会の出費が増えた」が 20.0%となっています。

選択肢	回答数	割合	0% 20% 40% 60% 80% 100%
仕事や家事に時間がとれなくなった	1	20.0%	20.0%
会費や宴会の出費が増えた	1	20.0%	20.0%
郷土芸能以外の趣味に時間がとれなく なった	0	0.0%	0.0%
人間関係が複雑になった	Ο	0.0%	0.0%
その他	0	0.0%	0.0%
特にデメリットは感じていない	2	40.0%	40.0%
無回答	1	20.0%	20.0%
サンプル数	5	_	

問 18 問 15 で「2.以前は郷土芸能に参加していたが、直近3年間は参加 していない」と回答された方にお伺いします。活動をしなくなった理 由をお選び下さい。(複数回答)

「仕事や家事が忙しくなったから」が 40.0%と最も高く、次いで、「学校の授業や部活動で参加していたが、進級や卒業に伴い活動しなくなったから」の 30.0%、「同年代の友人や家族が参加しなくなったから」の 15.0%の順となっています。

選択肢	回答数	割合	0% 20% 40% 60% 80% 100%
仕事や家事が忙しくなったから	8	40.0%	40.0%
学校の授業や部活動で参加していたが、 進級や卒業に伴い活動しなくなったから	6	30.0%	30.0%
同年代の友人や家族が参加しなくなった から	3	15.0%	15.0%
体力的に厳しくなったから	2	10.0%	10.0%
保存会が活動休止したり、解散したりし たから	1	5.0%	5.0%
郷土芸能以外の趣味や生きがいができたから	0	0.0%	0.0%
会費や宴会の負担が大きくなったから	Ο	0.0%	0.0%
なんとなく	2	10.0%	10.0%
その他	4	20.0%	20.0%
無回答	0	0.0%	0.0%
サンプル数	20	_	

◆その他の回答(一部抜粋・原文まま)

・引っ越しに伴い。

問 19 郷土芸能活動に参加したことがない方(問13の選択肢3、4、問15 の選択肢3、4のいずれかに回答された方)にお伺いします。郷土芸能 の観覧や、活動に興味がありますか。(単一回答)

「観覧には興味があるが、活動には参加したくない」が 52.1% と最も高く、次いで、「観覧に興味があり、裏方なら活動に参加したい」の 22.3%、「観覧や活動には興味がない」の 19.9%の順となっています。

選択肢	回答数	割合	0% 20% 40% 60% 80% 100%
観覧に興味があり、出演者として活動に も参加したい	11	5.2%	5.2%
観覧に興味があり、裏方なら活動に参加 したい	47	22.3%	22.3%
観覧には興味があるが、活動には参加し たくない	110	52.1%	52.1%
観覧や活動には興味がない	42	19.9%	19.9%
無回答	1	0.5%	0.5%
サンプル数	211	100.0%	

問20 どのような状況なら活動に参加してみたいと思いますか。(複数回答)

「仕事や家事以外の時間に余裕がある」が 51.2%と最も高く、次いで、「会費や参加料がかからない」の 32.7%、「体験イベントが開催される」の 30.3%の順となっています。

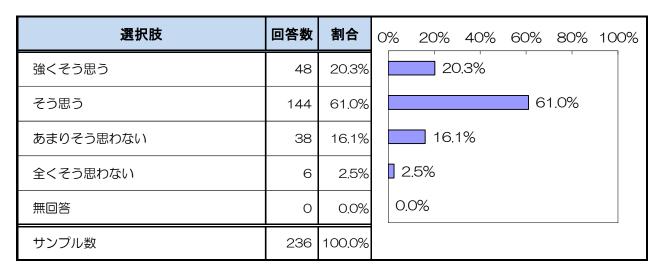
選択肢	回答数	割合	0% 20% 40% 60% 80% 100%
仕事や家事以外の時間に余裕がある	108	51.2%	51.2%
会費や参加料がかからない	69	32.7%	32.7%
体験イベントが開催される	64	30.3%	30.3%
同年代の人たちが参加している	62	29.4%	29.4%
友人や家族が参加している	62	29.4%	29.4%
自宅の近所で活動している	60	28.4%	28.4%
参加することで謝礼がもらえる	23	10.9%	10.9%
演奏や踊りなど、自分の特技が活かせる	19	9.0%	9.0%
その他	5	2.4%] 2.4%
どのような状況でも参加したいと思わな い	20	9.5%	9.5%
無回答	3	1.4%] 1.4%
サンプル数	211	_	

◆その他の回答(一部抜粋・原文まま)

・高齢のため、活動には参加したくない。

問 21 現在、少子高齢化や後継者不足によって、存続が危ぶまれる郷土芸能 もありますが、郷土芸能を守り続ける必要があると思いますか。 (単一回答)

「そう思う」が 61.0%と最も高く、次いで、「強くそう思う」の 20.3%、「あまりそう思わない」の 16.1%の順となっています。



問 22 問 2 1 で 「 1 . 強くそう思う」 「 2 . そう思う」と回答された方にお伺いします。そう思う理由はなぜですか。 (複数回答)

「地域の歴史を物語るものだから」が 75.0%と最も高く、次いで、「ずっと続いてきたことを絶やしてはいけないから」の 48.4%、「地域の絆や愛着を深めてくれるものだから」の 43.2%の順となっています。

選択肢	回答数	割合	0% 20% 40% 60% 80% 100%
地域の歴史を物語るものだから	144	75.0%	75.0%
ずっと続いてきたことを絶やしてはいけ ないから	93	48.4%	48.4%
地域の絆や愛着を深めてくれるものだか ら	83	43.2%	43.2%
地域の魅力をアピールできるものだから	82	42.7%	42.7%
将来の世代にも見せたいと思うから	69	35.9%	35.9%
生活や信仰に根付いたものだから	43	22.4%	22.4%
その他	1	0.5%	0.5%
無回答	Ο	0.0%	0.0%
サンプル数	192	_	

◆その他の回答(一部抜粋・原文まま)

絶えかけた事も、歴史のひとつ。

問 23 問 2 1 で 「3. あまりそう思わない」「4. 全くそう思わない」と回答 された方にお伺いします。そう思う理由はなぜですか。(複数回答)

「時代背景や価値観が昔とは変わったから」が 59.1%と最も高く、次いで、「郷土芸能を身近に感じないから」の 45.5%、「興味がないから」「他の文化やスポーツに力を入れるべきだから」の 13.6%の順となっています。

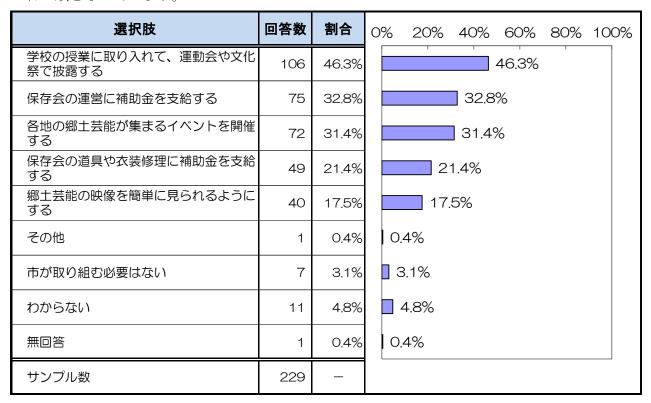
選択肢	回答数	割合	0% 20% 40% 60% 80% 100%
時代背景や価値観が昔とは変わったから	26	59.1%	59.1%
郷土芸能を身近に感じないから	20	45.5%	45.5%
興味がないから	6	13.6%	13.6%
他の文化やスポーツに力を入れるべきだ から	6	13.6%	13.6%
その他	2	4.5%	4.5%
無回答	1	2.3%	2.3%
サンプル数	44	_	

◆その他の回答(一部抜粋・原文まま)

・その地域で必要な文化なのであれば、継承されていくと思うが存続の危機にあるものについて は現地住民にとって本質的に継承することが必要だと感じていない方が多数なのではないか。 詳しく状況はわかりませんが。ただ、言葉や文化は永遠ではないし形を変えて存続するものも あれば消えるものもある。そういった流れがあるなかで文化が存在するのであって、市町村が できることは映像や音声、書籍での記録を怠らないことだと考えます。

問 24 郷土芸能の保護に市が取り組むうえで、どのような取組が特に効果的 だと思いますか。(2つまで)

「学校の授業に取り入れて、運動会や文化祭で披露する」が 46.3%と最も高く、次いで、「保存会の運営に補助金を支給する」の 32.8%、「各地の郷土芸能が集まるイベントを開催する」の 31.4%の順となっています。



◆その他の回答(一部抜粋・原文まま)

・その地域にあった文化や伝統を学べるような行事の開催を定期的に行う。

問 25 郷土芸能について、どのようなことでも構いませんので、自由にご記入ください。(実際に参加・観覧した時の感想や、保存活動に関して提案など)

◆回答一覧(一部抜粋・原文まま)

回答内容	性別	年代	地域
PR不足だと思います。郷土芸能カレンダーを作ってみてはどうでしょうか?	男	60 歳代	中央
まずは知る為の機会を増やしてほしい。	男	50 歳代	谷山
郷土芸能自体に触れる機会が少ないのでSNSでの普及をしてみるな	 女	29 歳以下	中央
ど、若い世代の目に届くところでの活動がいいのではないかと思う。			
子どもたちが親しみやすい活動だとよい。	女	30 歳代	中央
小学校では多くの学校で取り上げられているが、特に高校の体育祭など で積極的に取り上げて貰えないかと思います。	男	60 歳代	中央
強制的な行事にしてあるから、子供は嫌がります。	男	50 歳代	喜入
郷土芸能を守ることは大切だが、他者や家族の協力を強要するものではない。特に、男だけでイベントを楽しみ、打ち上げを女に押し付けるというイメージがあるので、そこは意識の問題だが改善する必要がありそう。	男	30 歳代	松元
実際に参加する機会がなかったので、家族で何かイベントなど参加できるものがあるといい。	女	30 歳代	谷山
保存活動に参加するための手段が分からない。	女	60 歳代	谷山
コロナもあって見る機会にとぼしくなった。	女	30 歳代	吉野
霧島?の太鼓を見た。イオンモールとか、身近なところで見れると親し みやすいです。	女	50 歳代	中央
私は中学生の文化祭で、郷土芸能を観覧しました。同級生が衣装を着て、堂々と踊っていて、すごく印象的でもう数十年前の事ですが、いまだに覚えています。その時は、地域に郷土芸能があり、かかわれる事が少しうらやましかったです。	女	30 歳代	谷山
田舎の運動会で毎年披露されていたものを見たことがあるが子供たちが 一生懸命に大人から教えてもらったものを披露している姿は感銘を受け た。これを絶やさない方法があればいいが少子高齢化にともない、私が 見ていた頃の物と今とではまったく違うものだろう。	女	29 歳以下	谷山
郷土芸能とか民俗文化財などというものは、幾多の時代の中で、人々に 愛されて、伝承されてきたものと思いますので、廃れていくものはやむ を得ないのではないかと思います。そういったものに、限られた税金を 投入して、無理に残さなければならないとは思いません。	男	60 歳代	吉野
全部を残していくのは難しいと思いますが、地域の歴史として残していく大切さもあると思います。個人や一部の方達の努力では難しいと思うので、公的な応援、援助は必要と思います。	女	50 歳代	中央
文化や伝統を継承することは大切ではあると思う。時代の流れにそぐわ ないため消失していくこともあると思うので、記録に残していくことが 重要であると思う。	男	29 歳以下	中央
郷土芸能と繋がりを持ったことがないので、具体的にどうしていったらいいのか見当がつきません ただ、伝え続けてきたものが消えると、その土地の特色が消えて、均一化してしまうので、残していけたらいいと思います。	女	50 歳代	松元
芸能という性質からある種の娯楽と理解します。楽しみが共有されなければどれもこれもと伝えていく価値はないのではないでしょうか。	男	40 歳代	中央
私が住んでいる瀬々串では、棒踊りがあります。地域の保存会の方々が 子供達に教え、文化祭などで披露しています。おじいちゃん、父親、子 供とずっと受け継がれる棒踊りが無くなってしまうのは寂しいなと思い ます。	女	40 歳代	喜入

Ⅳ 子どもの未来応援条例(仮称)の制定について

1. 調査の目的

本市では、子どもを社会全体で守り育てるという気運を醸成し、全ての子どもが生まれ育った環境に左右されることなく、現在から将来の生活にわたり夢や希望を持てる社会の実現を目指すため、令和3年度から「鹿児島市子どもの未来応援条例(仮称)」の制定に取り組んでいます。

この条例は今後の本市の子ども施策の方向性について規定するものであり、この調査は子育てや子どもの権利等に関して、市民の皆様の現状認識を把握し、条例制定の基礎資料とするために実施するものです。

つきましては、お忙しいところ大変恐縮ですが、本アンケート調査の趣旨をご理解の上、ご協力をお願いいたします。

2. 調査結果を受けて担当課(こども福祉課)からのコメント

子どもの未来応援条例(仮称)の制定に向けて、子どもの権利等に関する市民の皆様の現状認識 を把握するために、今回のアンケートを実施したところ、多くのご回答やご意見をいただきまして、 誠にありがとうございます。

子ども(児童)の権利に関する条約について、39.0%の方が「聞いたことはあるが内容は知らない」、34.7%の方が「知らない」と回答され、子どもの権利について、まだまだ多くの方が知らない現状であることが分かりました。

また、子どもの権利に対するイメージについて、多くの方が子どもが人間らしく生き、健やかに成長するために必要なものと考えている一方で、大人にとって面倒なもの「そう思う」4.7%、「どちらかといえばそう思う」8.1%、子どもに権利は必要ない「そう思う」3.0%、「どちらかといえばそう思う」2.1%との回答があるように、市民の皆様に、なぜ今子どもの権利を尊重する必要があるのか、より分かりやすく伝えていく必要があることも分かりました。

さらに、子どもの参加する権利について、家庭や学校行事・イベントに関しては、現在も子どもが参加する機会があるようですが、部活動等や学校の決まり、地域の行事やまちづくり、鹿児島市政について、子どもたちが参加する機会が、現状ではあまり無く、今後必要との意見が最も多くなっていたことから、学校や地域・行政において、これまで以上に、子どもたちの参加の機会が求められていることも分かりました。

今回の調査結果及びいただいた貴重なご意見を踏まえ、子どもたちを取り巻く現状と、子どもの権利尊重を基盤とした子どもにやさしいまちづくりについて、より一層、子どもにも大人にも広報が必要であると考えるところです。引き続き、子どもの未来応援条例(仮称)の制定に向けて、また、子どもにやさしいまちづくりを目指して取組を進めてまいります。

3. 調査結果

問26 あなたには、子どもがいますか。(単一回答)

「いる」が69.5%、「いない」が30.5%となっています。

選択肢	回答数	割合	
เกอ	164	69.5%	V 1/3/V 1
いない	72	30.5%	30.5%
無回答	О	0.0%	いる 69.5%
サンプル数	236	100.0%	

問 27 あなたは、「子ども(児童)の権利に関する条約」(1989年に国際連合で採択、日本は1994年に批准)を知っていますか。 (単一回答)

「聞いたことはあるが内容は知らない」が39.0%と最も高く、次いで、「知らない」の34.7%、「ある程度知っている」の23.7%の順となっています。

選択肢	回答数	割合	0% 20% 40% 60% 80% 100%
詳しく知っている	6	2.5%	2.5%
ある程度知っている	56	23.7%	23.7%
聞いたことはあるが内容は知らない	92	39.0%	39.0%
知らない	82	34.7%	34.7%
無回答	0	0.0%	0.0%
サンプル数	236	100.0%	

問 28 あなたは、子どもの権利についてどのようなイメージをお持ちですか。 (単一回答)

① 子どもが人間らしく生きるのに必要なもの

「そう思う」が 72.9%と最も高く、次いで、「どちらかといえばそう思う」の 21.6%、「どちらともいえない」の 4.7%の順となっています。

選択肢	回答数	割合	0% 20% 40% 60% 80% 100%
そう思う	172	72.9%	72.9%
どちらかといえばそう思う	51	21.6%	21.6%
どちらともいえない	11	4.7%	4.7%
どちらかといえばそう思わない	2	0.8%	0.8%
そう思わない	0	0.0%	0.0%
無回答	0	0.0%	0.0%
サンプル数	236	100.0%	

② 子どもが健やかに成長するために保障されるべきもの

「そう思う」が 78.8%と最も高く、次いで、「どちらかといえばそう思う」の 16.9%、「どちらともいえない」の 3.4%の順となっています。

選択肢	回答数	割合	0% 20% 40% 60% 80% 100%
そう思う	186	78.8%	78.8%
どちらかといえばそう思う	40	16.9%	16.9%
どちらともいえない	8	3.4%	3.4%
どちらかといえばそう思わない	1	0.4%	0.4%
そう思わない	0	0.0%	0.0%
無回答	1	0.4%	0.4%
サンプル数	236	100.0%	

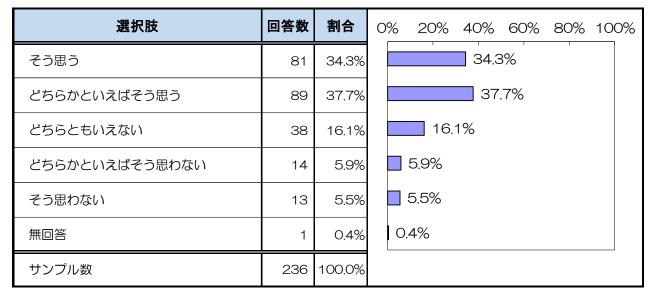
③ 大人と同じように当然認められるべきもの

「そう思う」が 51.7%と最も高く、次いで、「どちらかといえばそう思う」の 30.9%、「どちらともいえない」の 11.0%の順となっています。

選択肢	回答数	割合	0% 20% 40% 60% 80% 100%
そう思う	122	51.7%	51.7%
どちらかといえばそう思う	73	30.9%	30.9%
どちらともいえない	26	11.0%	11.0%
どちらかといえばそう思わない	9	3.8%	3.8%
そう思わない	4	1.7%	1.7%
無回答	2	0.8%	0.8%
サンプル数	236	100.0%	

④ 大人と比べてある程度の制限は仕方ない

「どちらかといえばそう思う」が 37.7%と最も高く、次いで、「そう思う」の 34.3%、「どちらともいえない」の 16.1%の順となっています。



⑤ 権利は義務や責任を果たしてこそ認められるもの

「そう思う」が 32.2%と最も高く、次いで、「どちらかといえばそう思う」の 29.2%、「どちらともいえない」の 21.6%の順となっています。

選択肢	回答数	割合	0% 20% 40% 60% 80% 100%
そう思う	76	32.2%	32.2%
どちらかといえばそう思う	69	29.2%	29.2%
どちらともいえない	51	21.6%	21.6%
どちらかといえばそう思わない	21	8.9%	8.9%
そう思わない	17	7.2%	7.2%
無回答	2	0.8%	0.8%
サンプル数	236	100.0%	

⑥ 権利ばかり尊重すると、子どもがわがままになる

「どちらともいえない」が29.2%と最も高く、次いで、「どちらかといえばそう思う」の26.3%、「そう思う」の20.8%の順となっています。

選択肢	回答数	割合	0% 20% 40% 60% 80% 100%
そう思う	49	20.8%	20.8%
どちらかといえばそう思う	62	26.3%	26.3%
どちらともいえない	69	29.2%	29.2%
どちらかといえばそう思わない	32	13.6%	13.6%
そう思わない	23	9.7%	9.7%
無回答	1	0.4%	0.4%
サンプル数	236	100.0%	

⑦ 自分の権利を大切にされることで、子どもは他人の権利も尊重できるようになる

「そう思う」が 39.8%と最も高く、次いで、「どちらかといえばそう思う」の 39.4%、「どちらともいえない」の 14.8%の順となっています。

選択肢	回答数	割合	0% 20% 40% 60% 80% 100%
そう思う	94	39.8%	39.8%
どちらかといえばそう思う	93	39.4%	39.4%
どちらともいえない	35	14.8%	14.8%
どちらかといえばそう思わない	9	3.8%	3.8%
そう思わない	5	2.1%	2.1%
無回答	0	0.0%	0.0%
サンプル数	236	100.0%	

⑧ 大人にとって面倒なもの

「そう思わない」が 45.3%と最も高く、次いで、「どちらともいえない」の 25.0%、「どちらか といえばそう思わない」の 16.5%の順となっています。

選択肢	回答数	割合	0% 20% 40% 60% 80% 100%
そう思う	11	4.7%	4.7%
どちらかといえばそう思う	19	8.1%	8.1%
どちらともいえない	59	25.0%	25.0%
どちらかといえばそう思わない	39	16.5%	16.5%
そう思わない	107	45.3%	45.3%
無回答	1	0.4%	0.4%
サンプル数	236	100.0%	

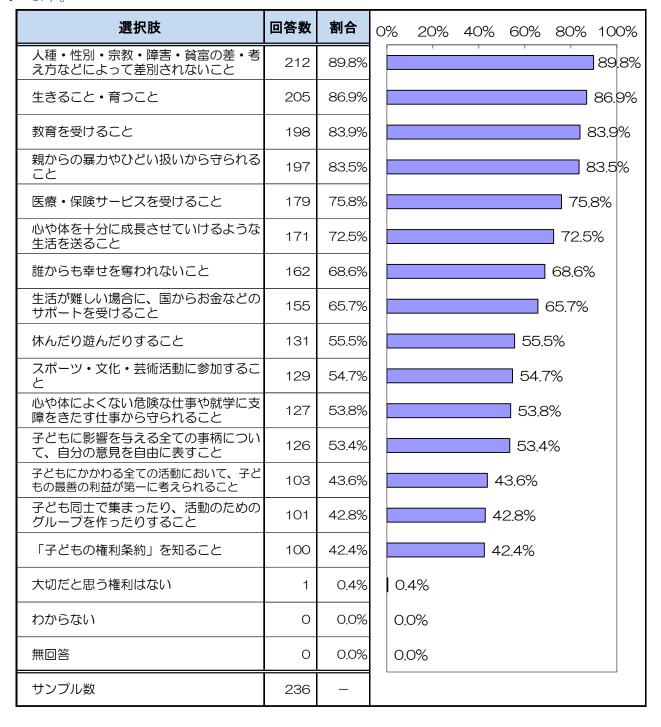
⑨ 子どもに権利は必要ない

「そう思わない」が 73.3% と最も高く、次いで、「どちらかといえばそう思わない」の 14.0%、「どちらともいえない」の 7.2% の順となっています。

選択肢	回答数	割合	0% 20% 40% 60% 80% 100%
そう思う	7	3.0%	3.0%
どちらかといえばそう思う	5	2.1%	2.1%
どちらともいえない	17	7.2%	7.2%
どちらかといえばそう思わない	33	14.0%	14.0%
そう思わない	173	73.3%	73.3%
無回答	1	0.4%	0.4%
サンプル数	236	100.0%	

問 29 子ども(児童)の権利条約は以下のような子どもの権利を保障しています。あなたが大切だと思う子どもの権利を全て選んでください。 (複数回答)

「人種・性別・宗教・障害・貧富の差・考え方などによって差別されないこと」が 89.8%と最も高く、次いで、「生きること・育つこと」の 86.9%、「教育を受けること」の 83.9%の順となっています。



問 30 子どもの権利条約は大きく4つの権利(①生きる権利②育つ権利③守られる権利④参加する権利)に分けられます。そのなかの④参加する権利に関して、子どもが自分の考えを言うことや様々な活動に参加する機会について、どのような状況だと思いますか。(単一回答)

① 家庭で大事な物事やルールを決める時に意見を言うこと

「機会は適度にある」が 43.6%と最も高く、次いで、「機会はあるが、今後もっと必要」の 27.1%、「機会はあまりないが、今後必要」の 22.5%の順となっています。

選択肢	回答数	割合	0% 20% 40% 60% 80% 100%
機会は適度にある	103	43.6%	43.6%
機会はあるが、今後もっと必要	64	27.1%	27.1%
機会はあまりないが、今後必要	53	22.5%	22.5%
機会はあまりないが、今後特に必要もない	2	0.8%	0.8%
分からない	14	5.9%	5.9%
無回答	0	0.0%	0.0%
サンプル数	236	100.0%	

② 学校行事・イベントの企画運営に参加すること

「機会は適度にある」が 37.3%と最も高く、次いで、「機会はあまりないが、今後必要」の 26.3%、「機会はあるが、今後もっと必要」の 22.9%の順となっています。

選択肢	回答数	割合	0% 20% 40% 60% 80% 100%
機会は適度にある	88	37.3%	37.3%
機会はあるが、今後もっと必要	54	22.9%	22.9%
機会はあまりないが、今後必要	62	26.3%	26.3%
機会はあまりないが、今後特に必要もない	8	3.4%	3.4%
分からない	22	9.3%	9.3%
無回答	2	0.8%	0.8%
サンプル数	236	100.0%	

③ 学校等の部活動等の活動内容に意見を言うこと

「機会はあまりないが、今後必要」が 29.7%と最も高く、次いで、「機会は適度にある」の 27.1%、「機会はあるが、今後もっと必要」の 22.0%の順となっています。

選択肢	回答数	割合	0% 20% 40% 60% 80% 100%
機会は適度にある	64	27.1%	27.1%
機会はあるが、今後もっと必要	52	22.0%	22.0%
機会はあまりないが、今後必要	70	29.7%	29.7%
機会はあまりないが、今後特に必要もない	22	9.3%	9.3%
分からない	25	10.6%	10.6%
無回答	3	1.3%] 1.3%
サンプル数	236	100.0%	

④ 学校の決まり事に意見を言うこと

「機会はあまりないが、今後必要」が 37.3%と最も高く、次いで、「機会はあるが、今後もっと必要」の 19.5%、「機会は適度にある」の 18.2%の順となっています。

選択肢	回答数	割合	0% 20% 40% 60% 80% 100%
機会は適度にある	43	18.2%	18.2%
機会はあるが、今後もっと必要	46	19.5%	19.5%
機会はあまりないが、今後必要	88	37.3%	37.3%
機会はあまりないが、今後特に必要もない	25	10.6%	10.6%
分からない	31	13.1%	13.1%
無回答	3	1.3%	1.3%
サンプル数	236	100.0%	

⑤ 地域の行事・イベントの企画・運営に参加すること

「機会はあまりないが、今後必要」が 37.3%と最も高く、次いで、「機会は適度にある」の 22.9%、「機会はあるが、今後もっと必要」の 15.7%の順となっています。

選択肢	回答数	割合	0% 20% 40% 60% 80% 100%
機会は適度にある	54	22.9%	22.9%
機会はあるが、今後もっと必要	37	15.7%	15.7%
機会はあまりないが、今後必要	88	37.3%	37.3%
機会はあまりないが、今後特に必要もない	24	10.2%	10.2%
分からない	31	13.1%	13.1%
無回答	2	0.8%	0.8%
サンプル数	236	100.0%	

⑥ 地域のまちづくりやボランティア活動に参加すること

「機会はあまりないが、今後必要」が 39.0%と最も高く、次いで、「機会はあるが、今後もっと必要」の 22.9%、「機会は適度にある」の 20.3%の順となっています。

選択肢	回答数	割合	0% 20% 40% 60% 80% 100%
機会は適度にある	48	20.3%	20.3%
機会はあるが、今後もっと必要	54	22.9%	22.9%
機会はあまりないが、今後必要	92	39.0%	39.0%
機会はあまりないが、今後特に必要もない	17	7.2%	7.2%
分からない	22	9.3%	9.3%
無回答	3	1.3%	1.3%
サンプル数	236	100.0%	

⑦ 鹿児島市政について意見を言うこと

「機会はあまりないが、今後必要」が 48.3%と最も高く、次いで、「分からない」の 16.5%、「機会はあまりないが、今後特に必要もない」の 13.1%の順となっています。

選択肢	回答数	割合	0% 20% 40% 60% 80% 100%
機会は適度にある	20	8.5%	8.5%
機会はあるが、今後もっと必要	29	12.3%	12.3%
機会はあまりないが、今後必要	114	48.3%	48.3%
機会はあまりないが、今後特に必要もない	31	13.1%	13.1%
分からない	39	16.5%	16.5%
無回答	3	1.3%	1.3%
サンプル数	236	100.0%	

問 31 子どもが安心して自分らしく生き、社会参加しながら成長していくに は、どのようなことが大切だと思いますか。意見があれば教えてくだ さい。

◆回答一覧(一部抜粋・原文まま)

回答内容	性別	年代	地域
核家族が多い中、近所との関わり方も必要だと思う。今の若い親にも "子供は宝"という言葉を知ってもらいたい。(悲しいニュースを観る 度に思う。)子供の遊び場(公園等)を増やして、地域の方(年配の方 等)と、出会う場所も必要。"地域で子育て"が出来れば相乗効果もあ ると思う。(昔のようになればいいと思いますが。)	男	40 歳代	吉野
子どもたち自身が自分の権利が保障されるものだということを、まず知ることが大切だと思う。そのためには教育の場でそれを取り上げることが大切ではないか。また、親をはじめ、全ての大人がそのことに理解を深めることも同時に大切なことであり、職場、団体、地域をあげて啓発に取り組んでいきたい。適切な相談機関の開設も考えたい。	男	70 歳以上	谷山
大人が適切な情報を与えてあげること。勉強、法律、世の中の仕組みを、先入観をなるべく排除して、教えてあげること。子どもが判断に迷っていたら、助け舟を出してあげられること。大人が子どもに「魚を釣ってあげる」のではなく、「魚の釣り方を教えてあげる」ことが大切。 大人が子どものやることを温かく見守ってあげることが大切、ただし、子どもが危機的な状況に巻き込まれる可能性が高い場合は、大人が手を差し伸べたり、体を張って守ってあげることが大切。	男	30 歳代	中央
子どもは自分で、出自を選ぶことはできません。どんな家庭に生まれて も、学問の自由を保障してあげて欲しいと思います。私自身、子どもは いませんが、お金がない家庭に生まれたために、大学に進学できないこ と等はあってはならないことだと思います。機会を平等にするために税 金を使って欲しいと思います。	男	40 歳代	谷山